

経営比較分析表

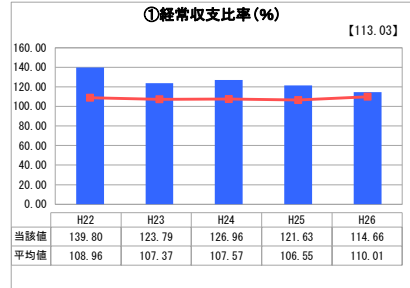
神奈川県 愛川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	71.95	68.08	2,070

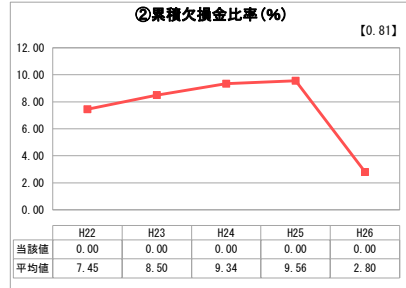
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
41,386	34.28	1,207.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,085	30.00	936.17

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

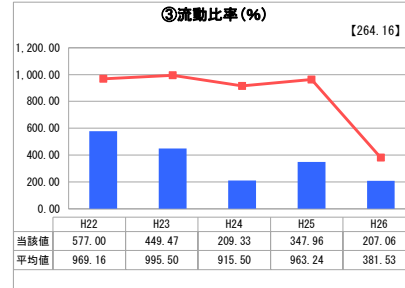
1. 経営の健全性・効率性



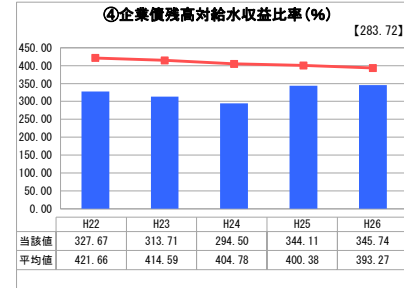
「経常損益」



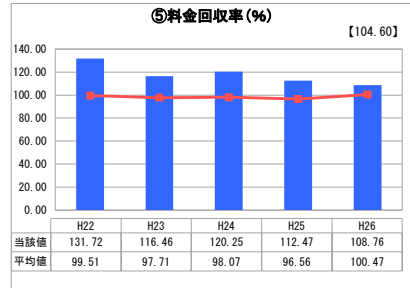
「累積欠損」



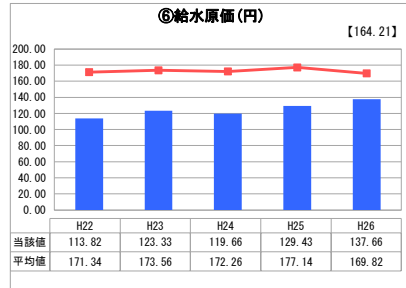
「支払能力」



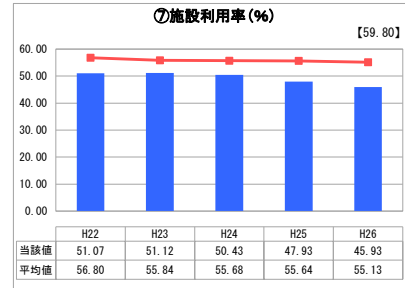
「債務残高」



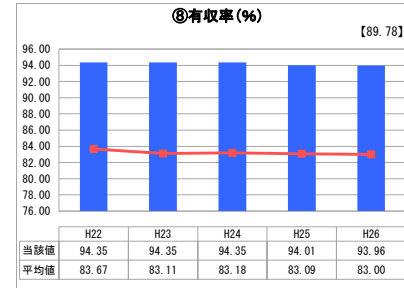
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

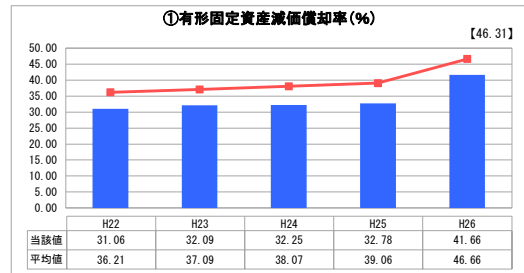


「施設の効率性」

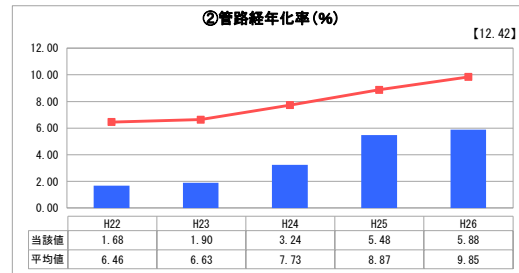


「供給した配水量の効率性」

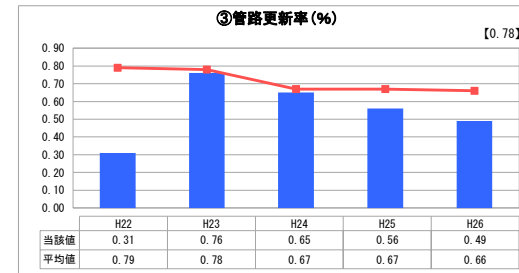
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上であり、類似団体よりも良好な数値となっており、現時点では経営状況は良好です。しかしながら、平成22年度をピークとして、料金収入の減少が続いており、経常収支比率や流動比率が下落傾向にあります。さらに、施設整備や更新による、減価償却費の増加などにより給水原価は上昇しつつあり、経営状況は急速に厳しくなりつつあります。効率性については、有収率は良好な数値ではありますが、施設利用率が低く、適正な規模の施設を保有しているのか検討する必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率ともに類似団体より低い数値となっております。これは、他の団体よりも管路整備の最盛期が遅いため、老朽化の進行が現時点では緩やかになっていると分析されます。しかし、今後は老朽化が急速に進むと考えられます。管路の更新率が類似団体より低い数値にありますが、計画的な管路の更新を推進する必要があります。

全体総括

良好な経営状況から急速に厳しい経営状況にかわりつつあります。料金については平成10年から据置が続いていますが、見直しが必要な時期が近づいております。また、管路をはじめ施設の老朽化も確実に近づいており適切な更新需要を把握する必要があります。施設の利用率が低いことから適正な規模を考慮しながら計画的な施設の更新を推進する必要があります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。